



門 保  
9339  
卷 /

江坂同善集

上

目錄

一 古智達中元迹

二 湯迹

三 仰林私願

四 自害

五 願

六 古便

七 二道

八 地

九 向宗政

十 祈物

十一 願之法

十二 盜

十三 僧

十四 中

十五 一

十六 一

山内河内

古坂中後代

恙年

山口

古坂

志林院

投所

地

三教

古坂

阿

招

江

中

招

中

五 家中人殺死方

五 盜いしんり殺す殺害

五 水死入り命進言書

五 盜賊隠居方

五 劫り不定死後命進言書

五 姦と物と殺害

五 欠込所下取難原小

五 親殺死難原

五 盗死し女年之巻通し命進言書

六 林死す

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

五 携りて命進言書

五 陣屋入り命進言書

五 痛し命進言書

五 盗り命進言書

五 盗り命進言書

五 盗り命進言書

五 盗り命進言書

五 盗り命進言書

五 盗り命進言書

六 不義に命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

六 盗り命進言書

五三 江戸の町

五二 江戸の町

五一 江戸の町

四九 江戸の町

四八 江戸の町

四七 江戸の町

四五 江戸の町

四三 江戸の町

四二 江戸の町

五四 江戸の町

五三 江戸の町

五二 江戸の町

五一 江戸の町

四九 江戸の町

四八 江戸の町

四七 江戸の町

四五 江戸の町

四三 江戸の町

四五 江戸の町

四三 江戸の町

四二 江戸の町

四一 江戸の町

四〇 江戸の町

三九 江戸の町

三八 江戸の町

三七 江戸の町

三六 江戸の町

四五 江戸の町

四三 江戸の町

四二 江戸の町

四一 江戸の町

四〇 江戸の町

三九 江戸の町

三八 江戸の町

三七 江戸の町

三六 江戸の町

九 用水の文

九 柳原の古鏡社の文

百 白くはるの文

百 名くはるの文

百 白くはるの文

百 白くはるの文

百 白くはるの文

九 柳原の古鏡社の文

九 白くはるの文

百 白くはるの文

百 白くはるの文

百 白くはるの文

百 白くはるの文



明治四十年九月十八日  
高田早苗 氏寄贈

Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.





庚申月三日入字

日産り四日  
高所書  
中ノ記  
宮ノ下ノ記

可慶友書... 近は... 存... 定...

右... 左... 中... 下... 上...

只及一同... 歩... 同...

右... 左... 中... 下... 上...

右... 左... 中... 下... 上...

七月  
公至後河守

中書... 慶友... 全高... 近... 中... 下... 上...













一 幸記の全書人後得しとのれお遠今四代

岩三村 入字 七

此のの度害より用古也 且右に以て其末に及ぬれりるを遠おす

入字

入字

此ののえき方呼係法也

入字

入字

此ののえき方呼係法也

利根郡古橋村内

入字

此ののえき方呼係法也 依此の便に及ぬれりるを遠おす

右の村に及ぬれりるを遠おす 依此の便に及ぬれりるを遠おす

七日

右の村に及ぬれりるを遠おす

一 此ののえき方呼係法也

入字

田畑の便に及ぬれりるを遠おす

但此の村に及ぬれりるを遠おす

一 此ののえき方呼係法也

此ののえき方呼係法也 依此の便に及ぬれりるを遠おす





十一 牧野大陽字 別系 係老云

此の事は... 係老云... 牧野大陽... 別系... 係老云... 此の事は... 係老云... 牧野大陽... 別系... 係老云...

別系

此の事は... 係老云... 牧野大陽... 別系... 係老云... 此の事は... 係老云... 牧野大陽... 別系... 係老云...

石像... 係老云...

石像... 係老云...

此の事は... 係老云...

此の事は... 係老云... 牧野大陽... 別系... 係老云... 此の事は... 係老云... 牧野大陽... 別系... 係老云...





















仍舊の方は後と云り後之時より此科は又言ふ所なり

后校后上馬所

信長

此科は為す事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
之科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の

后校后上馬所

信長

此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の

后校后上馬所

信長

此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の

后校后上馬所

信長

此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の  
此科は其科の事也と云ふ事は其科は其科の内にて是等の事は其科の

后校后上馬所

信長

信長  
信長  
信長  
信長  
信長  
信長  
信長  
信長  
信長  
信長

此利を以て下り人成りてきて年々古きを以て方々又古きを以て方々成りては在り  
五紀人の別帳に書加て下り人成りては在りては在りては在りては在りては在り  
三種成りては在りては在りては在りては在りては在りては在りては在り

一 大之澤令之龍宮

信濃也

おのり甲部下村所村  
信界各地の之を信界

之を信界  
之を信界

布を以て下り人成りては在りては在りては在りては在りては在りては在り  
信界各地の之を信界

此利を以て下り人成りては在りては在りては在りては在りては在りては在り  
信界各地の之を信界

九月日

信界各地の之を信界

此利を以て下り人成りては在りては在りては在りては在りては在りては在り  
信界各地の之を信界

九月日

一 倉橋共世市

信界各地の之を信界

信界各地の之を信界

此利を以て下り人成りては在りては在りては在りては在りては在りては在り  
信界各地の之を信界













いんげん

寛永九年

二九

寛永九年

松平理左衛門

四州知甲州山梨縣西條下村中徳之屋大助布之同村名之加番  
其ノ姓其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ

一海防方大助布之同村名之加番  
安及洋正州知方上延海ノ一ノ姓其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
海防ノ徳ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
一ノ河ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ

布之内大助布之同村名之加番  
申之月親其村役人ノ名在甲州府知事其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ

一丈助亦之同村名之加番  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ

三十一

寛永九年

松平理左衛門

寛永九年

其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ  
其ノ名其ノ事一説以テ一説以テ一説以テ一説以テ







之無元徳凡  
後也

世はたつ成儀をたつてはる思ふも  
之はたつてはる思ふも  
但病をたつてはる思ふも  
之はたつてはる思ふも

一 平右衛門左衛門玄通也 身をたつてはる思ふも  
はり侍り夜をたつてはる思ふも  
あつてはる思ふも  
母あつてはる思ふも  
後代あつてはる思ふも  
世にたつてはる思ふも  
平右衛門左衛門玄通也 身をたつてはる思ふも  
はり侍り夜をたつてはる思ふも  
あつてはる思ふも  
母あつてはる思ふも  
後代あつてはる思ふも  
世にたつてはる思ふも

妻と云ふはたつてはる思ふも  
平右衛門左衛門玄通也 身をたつてはる思ふも  
はり侍り夜をたつてはる思ふも  
あつてはる思ふも  
母あつてはる思ふも  
後代あつてはる思ふも  
世にたつてはる思ふも

平右衛門左衛門玄通也 身をたつてはる思ふも  
はり侍り夜をたつてはる思ふも  
あつてはる思ふも  
母あつてはる思ふも  
後代あつてはる思ふも  
世にたつてはる思ふも

平右衛門左衛門玄通也 身をたつてはる思ふも  
はり侍り夜をたつてはる思ふも  
あつてはる思ふも  
母あつてはる思ふも  
後代あつてはる思ふも  
世にたつてはる思ふも







卯年九月

Faint, illegible handwritten text in a cursive script, likely Chinese or Japanese, covering the right page of the manuscript. The text is arranged in several vertical columns.



